

令和2年度 第2回男女共同参画推進委員会 議事録

日時	令和3年3月29日（月） 開会：午前10時 閉会：午前11時55分
会場	蕨市立中央公民館 1階 集会室
出席	足立、岩渕、加藤、成田、池上、佐藤、野中、金丸、坂口、各委員 事務局（倉石室長、津田係長、鈴木主査、原田主事）
資料	資料1 男女共同参画推進委員会研修資料 資料2 蕨市DV防止基本計画（第3次）（案）について

1. 男女共同参画委員研修（蕨市男女平等行政推進会議と合同で実施）

「性の多様性を尊重する社会づくり」研修

さいたま地方法務局人権擁護課長を講師に招き、性の多様性についてお話しいただいた。

2. 開 会

3. 会議の公開及び傍聴について「蕨市市民参画と協働を推進する条例」に基づき定められた「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」により、この会議の公開を決定し、傍聴にかかる取り決めを行った。（今回の傍聴者は無し）

4. 議 題

(1) 男女共同参画委員研修について

研修について委員からの意見

【委員意見】

(委 員) 性の多様性については、少数派を否定したり排除したりしてしまっているのではないかと。学校でもこうしたことがわかっていないと知らずに差別用語を使っているのかもしれない。大人も子供も知っていく必要がある。

(委 員) 性の多様性については、分かっているところがあるので、自分も勉強していきたい。自然にうえつけられているものがあると考えたい。

(委 員) 職員と同じものが学べてよかった。具体的な施策について、質疑応答ができたよかったです。LGBTとSDGSとか人権と絡めていることができていい。すべての人々がありのまま受け入れられることがあたり前の共通認識をもち、パートナーシップ制度が進んでいくと良いと思う。

(委 員) 先程の研修について、埼玉県内の市町村でパートナーシップ制度を進めているところがあるが、蕨市はどこまで進められているのか。

(事務局) 近隣市の状況を見ながら検討を進めている。

(委 員) 年齢的に性の多様性が理解しがたいが、研修できてよかったと思って

いる

(委員) パートナーシップ制度がなぜ足並みがそろわないのか。足並みをそろえて進めると効果的。

(委員) 企業でも研修等の取り組みがある。しかし理解はできていても会社側の取り組み対して、一人ひとり重要性を理解するには時間がかかる。世の中ではなく、どれだけ本気で取り組んでいるのかというのが大事。

(委員) 差別用語となる言葉を当たり前の中で育ってきた世代だ。「お前が男ならもう少し出世できた」など、女性蔑視の世界があった。第一次産業の中では男性が多かったこともある。女性を昇格させるときは女性本人にも確認が必要だったりした。男女問わず、昇進できる社会になれば、男性が家庭をきちんと守らなければなかなか女性も外には出られない。

(委員) 最近のオリンピックの森会長のニュースなどを見ると、見えないふりをしてきたものが可視化されてきたのかなと思う。大使館やメディアによって世間的に関心が高まっているのではないかと発見ができた。見えていても見えなかったことが表に出てきて、あの発言で世界の先進国が批判したことで、メディアが発信し、考えてくれるように感じた。

(委員) 民生委員は女性が多い。そういう場だと逆に男性が思うところがあるのではないか。

(委員) 女性の登用率40%は、蕨市は達成できている。国の発言によりまだまだなのだなと思った。

(2) 蕨市DV防止基本計画（第3次）について

蕨市DV防止基本計画（第3次）の概要について、事務局から説明。

【質疑応答】

(委員) 書面会議（庁内も含めて）やパブコメではどのような意見が出たのか。

(事務局) 計画の中の市民意識調査結果について、被害者を「女性」に限定した文言を控えたが、調査結果によると女性の被害が多い状態だったため、「女性」の被害の多さを掲載した方が良いという意見がありそのようにした。パブコメについては、計画の内容ではなく、例えばデートDVの講演会を行って欲しいなどの要望に関するものが多かった。ご意見についてはホームページで公開をしている。

(委員) デートDVの認知度が低かったのが気になる。中学校で事業を行ったと聞いているが、結果は出ているのか。

(事務局) 事業では、認知度についてのアンケートを取らなかったのが、今回が初めての認知度調査となった。

(委員) デートDVについては必要であると思う。そのような意見が出て、今後どのように実施していくつもりなのか。

(事務局) 市民会議と一緒に講演会を実施していきたいと考えている。

(委員) 3年間事業を行ってきたが、認知度が低かった。中学生において

予防という意味で理解してもらいたいと思っている。

学校とお話しさせていただいたことがあるが、中学生にはまだ早い。という反応が学校の先生には多かった。暴力を振るわなくても暴力になることを知ることから始められる。知識を知ることによって予防のための教育になることは大事なことだと思う。事務局からもっとなげかけてもらえないか。

(事務局) 学校のカリキュラムも多くナーバスな問題のため、やり方も難しい。地域で講演会を行うなど市民会議などと一緒に検討していけたらと考えている。

(委員) 地域と繋がれない家庭や貧困家庭もある。地域で見守ることが本当に有効なのか。繋がれない家庭があることも理解した上で、形だけやるのではなく、意味のあるものにしてほしい。

(委員) この委員会で、この重要性を発信していけようしていきたい。

5. 閉 会